

平成 2 8 年 度

行 政 政 策 学 類

私費外国人留学生入学試験

小 論 文

時 間 1 2 0 分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子はこの表紙を除いて 4 枚、解答用紙は / 枚です。
印刷不鮮明の箇所などがあれば、監督者に申し出て下さい。
3. 解答用紙の指定欄には、必ず、受験番号を記入して下さい。
4. 解答は、別紙の解答用紙の解答欄に横書きで記入して下さい。
5. 解答用紙は持ち帰らないで下さい。

問題

問1 資料 A は、田中琢『考古学で現代をみる』（岩波書店、2015 年）の第Ⅱ章「文化財保護と世界遺産」の一部である。田中氏は傍線部①で「ようやく追いついてきた」と述べているが、それはどういうことか。田中氏の主張に則して、本文で述べられている具体例を踏まえながら説明しなさい（300 字以内）。

【註】

この文章が書かれたのは 1999 年であるが、その後、富士山は 2013 年に世界文化遺産に登録されている。

問2 資料 B は、2015 年 7 月 15 日付『朝日新聞』の記事である。寺脇研氏は傍線部②で「違和感がありました」と述べ、傍線部③で「疑問を感じました」と述べているが、寺脇氏の違和感や疑問の具体的な内容を、記事の内容に則して説明しなさい（300 字以内）。

問3 資料 A・B を読んであなたが考えたことを、具体例を交えながら述べなさい（600 字以内）。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から公表することができませんので
ご了承願います

平成28年度入学試験 小論文「出題意図」

(入試情報公開用)

行政政策学類 私費外国人留学生入試

問題の素材として用いたのは、田中琢『考古学で現代をみる』（岩波書店、2015年）の第Ⅱ章「文化財保護と世界遺産」中の「一点豪華主義の世界遺産」と題するエッセイ（資料A）、および、2015年7月15日付『朝日新聞』の「異議あり」欄に掲載された日本の世界遺産の現状に関するインタビュー記事（資料B）である。両方とも世界遺産の問題点を指摘する内容であり、一部に専門用語や歴史用語が含まれるが、全体としては平易な日本語で書かれているため、外国人留学生の入学試験の素材としてふさわしいと考えた。出題にあたっては、受験生の世界歴史や日本歴史に関する知識の程度を問うのではなく、資料の論者の主張をきちんと理解できているか、また、それを踏まえたうえで自らの意見を日本語で論理的に表現できているか、という能力を問うものとした。

問1

資料Aで論じられている日本の文化財保護と世界遺産との考え方や制度の違いを読み取り、整理させることで、受験者の日本語読解・論述能力を問うこととした。

問2

資料Bで論じられている現在の日本での世界遺産登録を目指す動きの問題点を読み取り、整理させることで、受験者の日本語読解・論述能力を問うこととした。

問3

二つの資料の論者の意見を踏まえたうえで自分の考えを主張させることで、受験生の論理的思考力および日本語論述能力を問うこととした。